

地域子育て支援拠点研修事業<広島開催>

《開催概要》

- 開催日：平成27年12月6日（日）10:00～16:30
- 会場：広島女学院大学 ランバスホール
- 主催：NPO法人子育てひろば全国連絡協議会
- 後援：（社福）全国社会福祉協議会・広島県・広島市・
（公財）ひろしまこども夢財団
- 協力：広島女学院大学・
NPO法人ひろしまNPOセンター
- 参加人数：156名



《プログラム》

■開会挨拶

- 中橋恵美子さん NPO法人わははネット理事長
NPO法人子育てひろば全国連絡協議会 理事



■プログラム1

「あらためて地域子育て支援拠点事業の4つの基本を考える」

- ◆こどもが育つ環境づくりとは？
- ◆大人にとっても居心地のよい拠点とは？
- ◆拠点におけるプログラムのありかたとは？



【コーディネーター】

金子留里さん 広島文教女子大学 地域連携室 室長

【話題提供】

- 坂本牧子さん NPO法人e子育てセンター 理事（ひろばアドバイザー）
岡本聡子さん NPO法人ふらっとスペース金剛 代表理事
NPO法人子育てひろば全国連絡協議会 理事



【データ提供】

福光節子さん NPO法人きよね夢てらす 子育て応援こっこ

間島いずみさん NPO法人子育てネットくすくす

舟本久美さん NPO法人ふれあい館ひろしま

地域子育て支援拠点事業の基本4事業「①交流の場の促進②相談・援助③子育て関連情報の提供④公衆の開催」について、配布したガイドラインも活用しながら、事例報告や会場参加者からの実践紹介と共に確認し、あらためて、事業実施において大切にすべきことや理念について考える。

【話題提供】

◆坂本牧子さん NPO法人e子育てセンター 理事（ひろばアドバイザー）

NPO法人e子育てセンターの概要と広島市安佐南区の状況について紹介しながら、「広島市公募型常設オープンスペースひろばKUSU-KUSU 祇園」について説明した。e子育てセンターは「笑顔で子育てできるお母さんお父さんが増える社会をつくる」をミッションにひろば活動を行う。最初の出会いを丁寧に行い、利用者が安心して自分らしく過ごせる場づくりを心掛けている。利用者同士の交流を促進する工夫として名札の活用、ランチタイム、リサイクルコーナーなどを設置し、利用を通してたわいのない会話のきっかけを作る。情報提供は顔の見える関係を大事に考え、あえて紙を積極的に使う。講習も「はじめて」「同世代」「専門家」「地域」などポイントを設定し、企画している。ひろばを通して保護者が気づき、子どもや親同士の関わり、地域との関わりを上手に作ることでできる場や情報の機会を準備することがスタッフの役割だと感じている。「ひろば」がゴールでなく、「ひろば」を通して元気になって出て行ってほしい、そう願って活動している。



◆岡本聡子さん NPO法人ふらっとスペース金剛 代表理事

NPO法人子育てひろば全国連絡協議会 理事

少子・高齢化が進みつつある大阪府富田林市に拠点を構えるNPO法人ふらっとスペース金剛のあゆみを紹介。自分自身の大変だった子育てで色々な人に助けられた経験から他の人に何かしたいと思いはじめた。「ふらっと」気軽に立ち寄れる場所、flat（＝対等）な関係で支え合う場所であることを大切に活動している。ひろばを知って、来てもらうために、SNSでの情報発信の他、親子が利用しそうな店舗や施設にチラシを置いてもらったり、絵本の読み聞かせなどのイベントを開催している。民家を使ったひろばで、初めての利用者が立ち寄りやすいよう、ウェルカムボードを置いたり、中が見えるようガラス張りにするなど工夫している。身近な会話を楽しむお茶タイムを大切に、何気ない会話の中にある利用者の悩みをスタッフは聞き流さない、たわいのない相談もスルーしない。そこから、相談が繋がっていくことを大切にしている。「ありのままがいい」という理念で親子を受け止め活動している。



【データ提供】

◆福光節子さん NPO法人きよね夢てらす 子育て応援こっこ

基本事業の「交流の場の促進」について紹介。岡山県総社市で3か所のひろばを運営している。はじめて広場に訪れる人のための居場所づくりを大切に考え、まずは親子の共通項探しから交流しやすい場づくりをしている。スタッフは自然体でいて、しゃべりやすい雰囲気づくりに努めている。利用者の声から様々なアイデアを得て、少数派の意見も大切にし「外国にルーツを持つママの交流」「パパ同士の交流」「マイナス1才からのつながりづくり」なども行っている。高齢者のサロンへの訪問を通じて「地域の高齢者との交流」も工夫している。日々の会話からいろいろなことを拾い上げ、その中から、問題を見つけていく取り組みについて紹介した。



◆間島いずみさん NPO法人子育てネットくすくす

基本事業の「相談・援助」について紹介。香川県善通寺市で、「子育て広場くすくす」と「子夢の家」を運営している。

いつも利用しているひろばで聞いてほしいという声に応え、傾聴を大切にしている。スタッフだけで対応がむずかしい場合や、個別に専門家に相談したいという場合は、専門性（言語聴覚士・心理療法士・保健師・助産師・栄養士など）のある機関と連携していく。スタッフは専門機関とのつながりづくりのために、市の行事に積極的に出かけ、顔を知ってもらおう努力をしている。

子育ての悩みの解決には、仲間とおしゃべりで前向きになれることもあれば、長く時間がかかることもある。まずは親子を尊重し、何気ない日常を丁寧にすごし、ひろばで親子を支えていきたい。



◆舟本久美さん NPO法人ふれあい館ひろしま

基本事業の「講習の開催」について紹介。広島県竹原市で「いのち」でつながる地域の支援を大切にしながら、ひろばを運営している。

地域の商店街でのハロウィンパーティーや妊婦さんを交えてのストレッチ、託児付き整体、抱っことおんぶのおはなし会など、様々な講習を展開している。利用者のできることを活かした講師をお願いし講習を展開したり、ボランティア養成講座も実施し、ボランティアの活用もすすめている。

子育ては、個人的なものではなく、地域の中にあり、地域は生活の場でもある。だからこそ、子育てには地域と日常的なかかわりが大切であるという理念で、地域の幅広い世代の人材が関わりを持つ環境づくりを講習を通して行う。



■プログラム2 基調報告

「子ども・子育て支援新制度について」

【講師】竹中大剛さん 厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課 少子化総合対策室 室長補佐

地域子育て支援拠点事業および子ども・子育て支援新制度の概要説明および地域子育て支援拠点事業の今後の課題について説明された。

現在の子育ては、核家族化や地域のつながりの希薄化を背景に、不安感や負担感を抱き、孤立している課題がある。地域子育て支援拠点事業は4つの基本事業を軸に、交流の場、不安や悩みを相談できる場として機能し、子育て中の親子の支えとなっている。子ども・子育て支援新制度は、平成24年度に成立した「子ども・子育て関連3法」に基づく制度で、消費税増税分を活用し、子育て支援の質・量の両面の拡充を図り、社会全体で子どもの育ちや子育てを支えるものである。今後、市町村が子ども・子育て支援事業計画をどう展開し実施するのか、確認していくことが大切である。拠点事業の課題は、子育て等に関する相談やアウトリーチに対応できる人材の育成や利用者支援事業（基本型）の積極的な実施が求められており、特に、利用者支援事業は、子育て家庭の個別ニーズに合わせて、適切な支援につなげたり、関係機関等に働きかける役割などを担う事業として、当事者目線で、利用者主体の支援を行っている地域子育て支援拠点での実施を期待しており、利用者支援事業ガイドラインに支援のコンセプトを入れているので、参考にして取り組みを進めてほしい。



■プログラム3 講義

「地域子育て支援拠点におけるソーシャルワークとは」

地域子育て支援拠点事業と利用者支援事業が一体的に運営されていくために必要な視点や地域子育て視点拠点で取り組むソーシャルワークの可能性について学ぶ。

【講師】橋本真紀さん 関西学院大学 教授

子ども・子育て支援法において、子ども・子育て支援事業は「必要な情報の提供及び助言を行うとともに、関係機関との連絡調整その他の内閣府令で定める便宜の提供を総合的に行う事業」とされている。利用者支援事業は、一人一人の子どもが健やかに成長することができる地域社会の実現に寄与する目標を掲げ、子育て家庭にとって身近な場所で、「利用者支援」と「地域連携」を行うきわめて重要な事業である。

利用者支援事業の支援は「予防支援型」であり、家庭が地域の中に子どもを育てるサポート体制を自ら創っていくプロセスを支える役割を、ニーズ把握や相談対応、情報収集・提供、助言・利用支援を通して行う。

利用者支援事業の「地域連携」では、関係機関と連絡・調整、連携、協働の体制づくりをすること、地域の子育て資源の育成や地域課題の発見・共有、社会資源の開発が求められる。その上で、利用者支援専門員に対しては、日常的に他領域やインフォーマルな資源を含めた地域の資源とつながり、その関係を基盤としながら、継続的、横断的に資源と家庭をつなげ支えていくことが求められる。



■プログラム4 パネルディスカッション

「寄り添う、広げる、深める」～親子にとって身近な場での支援～

【コーディネーター】

松田妙子さん NPO法人せたがや子育てネット 代表理事
NPO法人子育てひろば全国連絡協議会 理事

【パネリスト】

橋本真紀さん 関西学院大学 教授

赤迫康代さん NPO法人子ども達の環境を考えるひこうせん 代表理事

中橋恵美子さん NPO法人わははネット 理事長・NPO法人子育てひろば全国連絡協議会 理事



◆中橋恵美子さん NPO法人わははネット 理事長・NPO法人子育てひろば全国連絡協議会 理事

高松市内 31 の拠点のうち、平成 25 年 11 月地域子育て支援拠点「機能強化型」の公募で選ばれた 4 つの拠点が、平成 26 年 4 月にそのまま「利用者支援事業」へ移行した。現在、情報共有のガイドラインをもとに 4 拠点で情報共有や、大学の先生の参加による事例のスーパーバイズ、子育て関連の施設や各種制度などの情報集約とスタッフの知識習得をすすめる、コーディネーターがスキルアップすることにより安定的なコーディネートが図られている。また、事業の周知、啓発に努め、事業への理解が高まり関係機関との連携が進んでいる。今後の課題は、相談を受けることで解決の糸口を丁寧に見つけていくこと、コーディネーターと相談者が依存関係にならないよう相談者をどうエンパワメントしていくかである。



◆赤迫康代さん NPO法人子ども達の環境を考えるひこうせん 代表理事

備前市は地域子育て支援拠点が 5 か所、その内 4 か所が利用者支援事業を実施している。平成 12 年 4 月に備前市直営事業として「わくわくる一む」が発足、平成 19 年 5 月より NPO 法人が運営委託を受け現在にいたる。平成 27 年 4 月から子育て支援事業「まある」をスタートし、子育て支援コーディネーターが配置された。まずは活動を理解し認知してもらうための広報活動と、関係機関との協力体制作りを行った。また、行政機関だけではなく、地域の多様なボランティアとのつながりを積極的に実施している。個別相談への対応や双子や発達障がいのある子どもなど個別なニーズを持つ親子へのコーディネート、アウトリーチによる支援なども行う。具体的な事例として、授乳の悩みや保育園の不安、子どもの発達不安や、発達障がいのある子の進級、就学の悩みなどに寄り添い、広げ、深めていくことで利用者支援を展開している。コーディネーターという役割や守秘義務の宣言を示すことで各機関との関係が築きやすくなった。個別の相談の中で、ここの家庭状況に合わせて必要な支援を当事者とともに選択しながら一歩ずつ前に進んでいる実感があり、相談を受ける中で、必要な社会資源を関係機関とともに作っていく方向性が見えてきている。



拠点スタッフとコーディネーターの連携に関して、どのあたりから移行するかなど、まだ工夫が必要だと感じており、お互いの役割を明確にしそれぞれを生かした活動になるよう、協議・研修を重ね、必要とされる社会資源の開発や充実を通して、「子育てにやさしいまち」にしていきたい。

◆ディスカッション

会場から、「利用者支援専門員になる人は資質がいるのではないか」「利用者から緊急時に頼られることはないか」「利用者支援員の携帯電話番号を教えることはあるか」「個人情報の守秘義務はどうしているか」の質問があった。



【橋本さん】

家族・家庭の体力・気力を知り、リフレッシュしながら専門力をつけることが大切である。

【赤迫さん】

利用者支援専門員個人の携帯番号やアドレスを教えることはない。案件が自分の手から離れ別の機関に移ったら、深追いはしない。

個人情報について、役所などに問い合わせをする場合でも利用者本人に必ず確認をとるようにしている。守秘義務についてはコーディネーター養成講座で習った「守秘義務の宣言」を実施している。

【中橋さん】

「そばにいるよ」と声かけをするが、個人的なつながりは持たない。どのタイミングでつなげたらいいか、抱えこまないでチームで行うことが大切である。気付かないことを意識し、自分自身を知ることで、専門的な資質が問われる。試行錯誤しながら、専門性を身につけることが望ましい。

【松田さん】

個人情報・守秘義務についての線引きについては、厚生労働省の宿題とする。「利用者支援事業がわが地域で始まったら、どんな景色が見えるだろうか」と利用者支援の風景を楽しみにしながら、どんな仕組みがあったらいいだろうかを考え、わが拠点としてどうあったらいいかということを考えてみる大切である。



■閉会挨拶

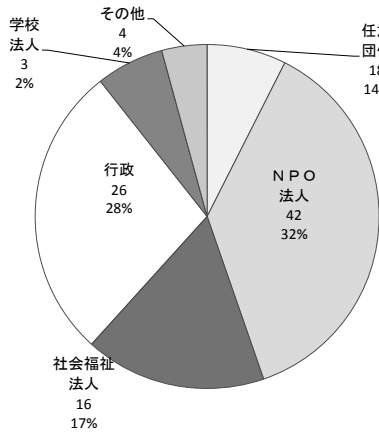
岡本聡子さん NPO法人ふらっとスペース金剛 代表理事
NPO法人子育てひろば全国連絡協議会 理事



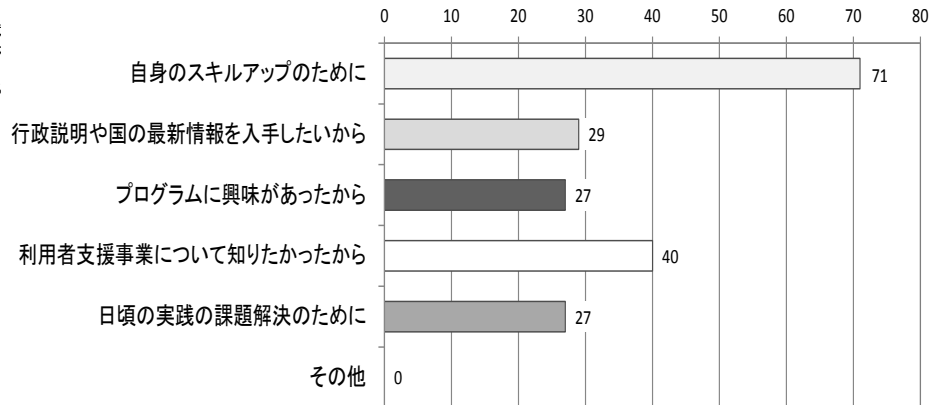
【広島開催】アンケート結果サマリー

◆回答者内訳: 男性 2 名、女性 90 名、未回答 6 名【20 代 5 名、30 代 22 名、40 代 25 名、50 代 30 名、60 代 8 名、未記入 8 名】

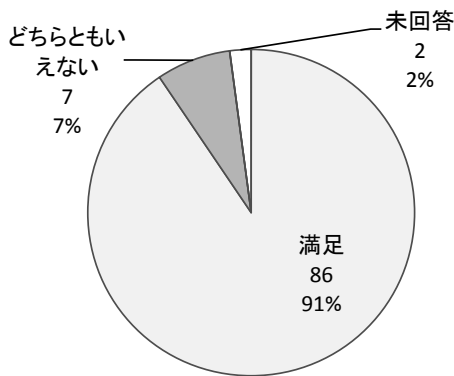
(1) 所属



(2) 研修に参加した目的



(3) 研修全体についての評価



(評価の理由)

- ・ひろばでのふれあい方や考え方の勉強になった。
- ・基本に忠実に、利用者を中心とした取組みが大切だと再認識した。
- ・地域と顔の見える関係を作ることが基本だと感じた。
- ・4つの基本など様々な話が聞け、これからしっかり勉強していこうと思った

(4) 各プログラムの感想

◆プログラム 1

- ・実践があったからこそその 4 つの基本であることを再確認できた。目の前の親子に寄り添いたいと思った。
- ・原点にもどる、基本に立ち返ることを大切にし、居心地の良い場所作りに励みたい。
- ・支援者が周囲と関係を作り、地域で支援する為に情報収集・提供が大切だと感じた。

◆プログラム 2 基調報告

- ・地域子育て支援事業の経緯と今後の課題を合わせ、利用者支援事業がこれから更にニーズが高まる事業だとよく分かった。ひろばがサービスの入口として役割や出来ることを考えていこうと思う。

◆プログラム 3 講義

- ・地域ソーシャルワークに必要な着目点や基本の対応、構築モデル、注意点などを知り、勉強になった。
- ・行政、保健所、他の施設と連携し、包括的な支援をニーズに少しでも合わせていけるようにしたい。
- ・「あるべき姿に導く」のではなく、主体は本人であるということ知った。

◆プログラム 4 パネルディスカッション

- ・地域とのつながりの上に子育て支援があり、それを充実していくためには顔の見える関係を作っていく、地域資源を知り、つなげていくことが必要だと感じた。
- ・当事者の方に寄り添い、必要に応じた支援をしていくことや、依存にならない関係作りの見極めも大切。

(5) その他、ご意見・ご要望

- ・色々な立場の人が参加される、子育てを楽しく学び合える多様な子育て支援の場がある地域にしたい。
- ・ただの雑談ではなく「意味のある雑談」と考えていきたいと思った。